

横手市社会福祉協議会 「ふくし出前事業」のご案内

横手市社会福祉協議会では、地域の皆さんに福祉への関心を高めていただくため、自治会や町内会、企業や団体の集まりなどで、福祉に関する勉強会や体験などの企画提案や講師の派遣などを行っていますので、ぜひご活用ください。



《出前講座のメニュー例》

No.	メニュー例	内容例
1	『福祉活動・サービスに関する講座』 ◆講師：福祉活動者、社協職員など 	安心して暮らし続けられる地域について考えた り、市内の福祉活動やサービスについて学びます。 ・「福祉とは？」など基本的な福祉のことについて学ぶ。 ・地域で行われている福祉活動や市内の福祉サービスなどを学ぶ。 ・地域に必要な取り組みを想像し、自分たちができることを考える。
2	『ボランティアに関する講座』 ◆講師：ボランティア活動者、社協職員など 	ボランティアの意味や実際に行われている活動を知り、自分たちにもできる活動を考えます。 ・「ボランティアとは？」など基本的なボランティアのことについて学ぶ。 ・地域で行われている活動を知る。 ・自分たちにできる活動を考える。
3	『加齢に伴う体の変化に関する講座』 ◆講師：社協職員など 	視覚、聴覚、筋肉、関節、骨等の衰えなど、加齢に伴う体の変化などについて学びます。 ・得意なことや苦手なことなど、体の変化に伴う日常生活の変化を考える。 ・高齢者疑似体験セットなどを活用して、日常動作を体験してみる。 (箸の使用、小銭の出し入れ、靴を履くなど)
4	『認知症に関する講座』 ◆講師：社協職員など 	認知症に関する理解を深めながら、接し方を学びます。 ・認知症の正しい理解と、認知症の方への接し方を知る。

No.	メニュー例	内容例
14	『介護体験』 ◆講師：社協職員(介護福祉士、ヘルパー)など 	在宅でできる寝たきりの方への介助方法などを学びます。 ・負担を軽減する介護方法についてのお話や介護体験。
15	『レクリエーション体験』 ◆講師：社協職員など 	障がい者スポーツや高齢者の介護・認知症予防などにつながるゲーム、体操や脳トレなどを体験します。 ・ボッチャやフライングディスクなどを障がい者の方と一緒に体験してみる。 ・手軽に楽しめるレクリエーションを体験してみる。(体操、脳トレなど)

～ 開催時のイメージ ～



【点字学習】



【介助の体験】



【レクリエーション体験】

○講座のメニューは例です。障がいのある方や高齢者など、当事者の皆さんによる講話や交流活動など、学びを深めるための開催方法や内容について、一緒に検討させていただきます。

○なるべく実施予定日の1か月程度前までお問合せください。

○社協職員が講師の場合は無料ですが、その他の方に講師を依頼する場合は、謝礼・交通費等が必要となる場合があります。

よろしく
お願いします



【連絡先・問合せ先】

社会福祉法人横手市社会福祉協議会 本部 地域福祉課
電話：36-5377 FAX：36-5388
又は、最寄りの福祉センターまでご連絡ください。

No.	メニュー例	内容例
5	『赤い羽根共同募金のしくみに関する講座』 ◆講師：県共同募金会職員、社協職員など 	赤い羽根共同募金のしくみや用途などについて学びます。 ・募金の目的や仕組み、どのように使われているのかを知る。 ・災害と募金との関わりを知る。
6	『災害ボランティア講座』 ◆講師：社協職員など 	災害時に必要となる支援について、災害ボランティアの活動事例などを基に学び、地域で災害が発生した際の対応などを考えます。 ・横手市の災害ボランティアセンターの取り組みを知る。 ・地域で想定される災害を考え、必要となる支援などを考える。
7	『避難所運営の疑似体験』 ◆講師：社協職員など 	避難所運営を疑似体験するゲーム「避難所HUG」を使い、学校などの図面に、体調や事情などが書かれた避難者カードを配置していきます。一人ひとりに配慮した避難所の運営をみんなで考えます。 ・小さい子どもや高齢者、障がい者、外国人、持病がある方、ペットを連れてきている方など、みんなが安心して過ごせる避難所を考える。
8	『防災カードゲーム体験』 ◆講師：社協職員など 	災害時に判断を迫られた実際の出来事や災害への備えに関する質問が書かれているカード「クロスロード」を使い、いざという時の対応を考えます。 ・「激しい雨が続き避難勧告が出た。現在は真夜中。今すぐ避難する？」など、具体的な事例をもとに対応を考える。
9	『点字体験』 ◆講師：点訳ボランティアなど 	点字の書き方や読み方を学びます。 ・点字盤を使用し、自分の名前を書いてみる。 ・点字を読んでみる。

No.	メニュー例	内容例
10	『手話体験』 ◆講師：手話ボランティアなど 	手話でのコミュニケーションの取り方を学びます。 ・自分の名前やあいさつなどを、相手に手話で伝えてみる。 ・聴覚障がい者の方と手話で会話してみる。
11	『聴覚障がい体験』 ◆講師：聴覚障がい者、社協職員など 	疑似体験を通して、聴覚障がい者への介助の仕方などを学びます。また、聴覚障がい者の方からお話を聴きます。 ・ヘッドホンを使用し日常動作を試してみる。(会話、外出など) ・聴覚障がい者の方などからお話を聴く。
12	『視覚障がい体験』 ◆講師：社協職員など 	疑似体験を通して、視覚障がい者への介助の仕方、コミュニケーションや信頼し合うことの大切さなどを学びます。 ・アイマスクなどを使用し介助役と2人1組で会場を歩いてみる。 ・日常動作を試してみる。(食事、会話など) ・誘導(声のみ)により障害物がある中を歩いてみる。
13	『助け合いの疑似体験』 ◆講師：社協職員など 	「助け合い体験ゲーム」を使って、ご近所同士による助け合いを体験するほか、地域に必要な取り組みをみんなで考えます。 ・ゴミ捨て、買い物支援など、自分や近所の方が不便を感じていることを情報共有する。 ・参加者それぞれができる「ちょっとした生活支援」を考える。